茨城県景気ウォッチャー調査
（平成17年3月調査分）

調査の目的

・経済の第一線で働いている人々から，景気に関する生の情報を得る。
・その景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに，迅速に公表する。
・県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となる。

調査の概要

・調査客体数…県内各地域（県北，県央，鹿行，県南，県西）ごとに60名，計300名です。
・調 査 内 容…景気の現状，先行き判断とその判断理由。
・調 査 時 期…四半期（６，９，12，３月）ごとに実施し，翌月公表。

結果の概要（回答率93.7%）

県全体の状況

景気現状判断DI		景気先行き判断DI	
県全体	**46.9**（－1.4）	県全体	**50.1**（＋4.1）
県北地域	**42.8**（＋0.4）	県北地域	**45.8**（＋ 2.0）
県央地域	**47.3**（－1.8）	県央地域	**50.5**（＋ 1.8）
鹿行地域	**45.5**（－6.8）	鹿行地域	**54.9**（＋10.4）
県南地域	**50.4**（＋2.6）	県南地域	**52.2**（＋ 7.6）
県西地域	**48.6**（－1.4）	県西地域	**47.3**（－ 1.3）

※（　）は前回調査（平成16年12月）との比較をしたものです。

※DI（Diffusion　Index）
景気動向を判断するために使用される指標の一つであり，景気の方向性（景気が上向きか下向きか）をみるもので，**50が横這いを表しています**。茨城県景気ウォッチャー調査では，回答を区分ごとに点数であらわし，その点数を回答構成比（%）で乗じてDIを算出しています。

● ３か月前と比較した景気の現状判断DIは，「やや良くなっている」の回答構成比が減少し，「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため，1.4ポイント減の**46.9**となり，**前回調査に引き続き横這いを表す50を下回りました。**
これは，飲食関連及びサービス関連で「（やや）悪くなっている」との回答が多かったためです。特にサービス関連について，レジャー施設やゴルフ場等から週末の降雪等天候の影響で客数が減少したという声が多く聞かれました。また，小売関連については，消費者の買い控え・買い回り傾向が続いているという声が多く聞かれました。

● ３か月先の景気の先行き判断DIは，「良くなっている」・「やや良くなっている」の回答構成比が増加したため，4.1ポイント増の50.1となり，**横這いを表す50を上回りました。**
これは，雇用関連DIが50を上回ったことに加え，家計動向関連DI及び企業動向関連DIがそれぞれ49.6，49.7とほぼ横這いまで回復したためです。暖かくなり観光シーズンを迎えることや，つくばエクスプレスの開業に期待する声が多く聞かれました。一方で，原材料価格の高騰や，同業者との価格競争の激化を懸念する声が依然として多く聞かれました。

地域別の動向

１　県北地域

(1)　現状判断

３か月前と比較した景気の現状判断DIは**42.8**であり，12月調査分と比べて0.4ポイント上回りました。また，**DI値は全県を通じて最も低くなりました。**業種別にみてみると，企業動向関連DIが12月調査分を上回りましたが，家計動向関連DI及び雇用関連DIが12月調査分を下回りました。

主な判断理由
・北米での自動車販売が好調のため，物量が増加傾向にある。（製造業（輸送用機械器具））
・１日の営業回数及び土日祝日の仕事が減少している。駅での人の乗り降りも少なく，夜の居酒屋の客も少なくなっている。（タクシー運転手）

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは**45.8**であり，12月調査分と比べて2.0ポイント上回りました。また，**DI値は全県を通じて最も低くなりました**。業種別にみてみると，家計動向関連DIが12月調査分を上回りましたが，企業動向関連DI及び雇用関連DIが12月調査分を下回りました。

主な判断理由
- この地域を支える企業の業績が好転している話が聞かれない。（非製造業（情報処理サービス））
- 先が見えないため短期で注文する客がほとんどである。（人材派遣業）

2 県央地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断DIは**47.3**であり，12月調査分と比べて1.8ポイント下回りました。業種別にみてみると，企業動向関連DIが12月調査分を上回りましたが，家計動向関連DI及び雇用関連DIが12月調査分を下回りました。

主な判断理由
- 建設投資は非常に大きく動いている。依然として福祉関連・マンション・物販施設が多い。民間の設備投資も大きく動いている。（非製造業(建設業)）
- 偕楽園周遊の客は前年比で微増であるが，降雪で若干のキャンセルがあった。（観光型ホテル）

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは**50.5**であり，12月調査分と比べて1.8ポイント上回りました。業種別にみてみると，家計動向関連DI及び雇用関連DIが12月調査分を上回りましたが，企業動向関連DIが１２月調査分を下回りました。

主な判断理由
- 退職等で人手不足になる場合があるため，企業先等からの受注の増加が見込まれる。（人材派遣業）
- 一部の顧客から発注が今後増えないとの通達があった。（製造業（金属製品））

3 鹿行地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断DIは**45.5**であり，12月調査分と比べて6.8ポイント下回りました。業種別にみてみると，家計動向関連，企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を下回りました。

主な判断理由
- 客から大型店に行けば１か所で買物ができるので商店街に寄る機会が減ったとの声が聞かれる。（書店）
- 史上最高益の更新と報道されているのはほんの一握りの大企業だけである。（製造業（飼料製造））

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは**54.9**であり，12月調査分と比べて10.4ポイント上回りました。また，**DI値は全県を通じて最も高くなりました**。業種別にみてみると，家計動向関連，企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回りました。

主な判断理由
- 一年のうちで一番の書き入れ時である。（観光名所職員）
- 当社への影響力が大きい鉄鋼業は順調に伸びているが，度重なる原材料等の値上がり分をどれだけ価格転嫁できるかによる。（製造業（窯業・土石製品））

4 県南地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断DIは**50.4**であり，12月調査分と比べて2.6ポイント上回りました。また，**全県を通じて唯一横這いを表す50を上回りました**。業種別にみてみると，企業動向関連DI及び雇用関連DIが12月調査分を上回りましたが，家計動向関連DIが12月調査分を下回りました。

主な判断理由
- 求人広告掲載が増加している。（求人広告）
- 商圏人口は変わらないのに，スーパーマーケットの新規出店やディスカウント型への業態変更等の影響で客数が大幅に減少している。また，客の買物も特価品に偏っている。（スーパー）

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは**52.2**であり,12月調査分と比べて7.6ポイント上回りました。業種別にみてみると，家計動向関連，企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回りました。

主な判断理由
- ・つくばエクスプレス関連の工事のため，客数が増加している。（小売業（各種食料品））
- ・県南方面は求人件数が新規出店も含めて多い。（求人広告）

5 県西地域

(1) 現状判断

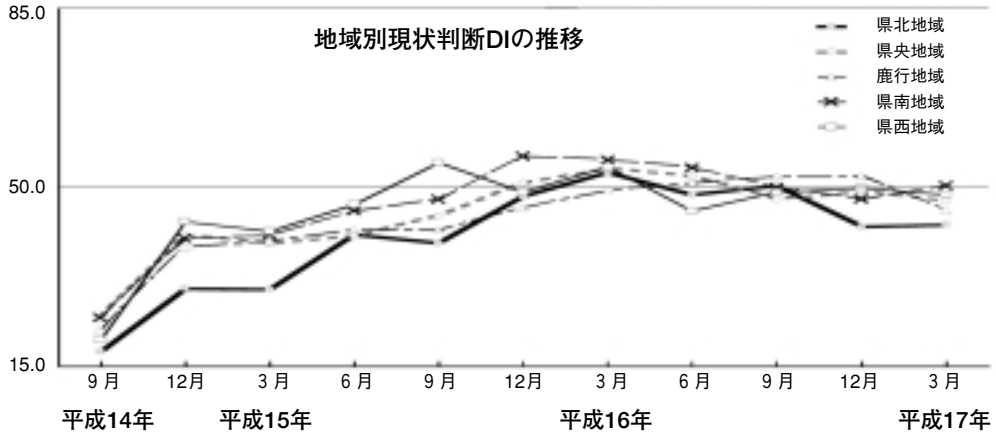
3か月前と比較した景気の現状判断DIは**48.6**であり，12月調査分と比べて1.4ポイント下回りました。業種別にみてみると，企業動向関連DIが12月調査分を上回りましたが，家計動向関連DI及び雇用関連DIが12月調査分を下回りました。

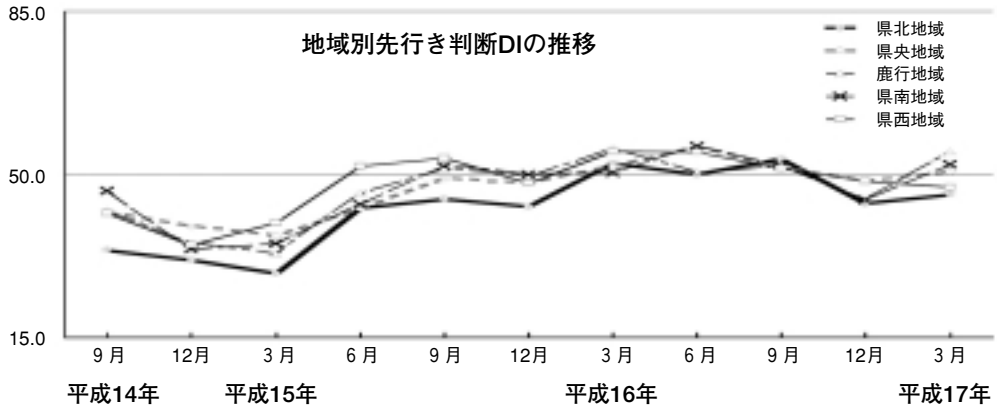
主な判断理由
- ・昨年の暮頃から取引の始まった顧客から毎月仕事が出てきている。また，納期や単価は厳しいが，既存顧客からの仕事も増加している。（製造業（一般機械器具））
- ・求人数がやや増加しているが，世代交代のためによるものである。（求人開拓員）

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断DIは**47.3**であり,12月調査分と比べて1.3ポイント下回りました。業種別にみてみると，雇用関連DIが12月調査分を上回りましたが，家計動向関連DI及び企業動向関連DIが12月調査分を下回りました。

主な判断理由
- ・原油価格の高騰により，徐々に製品価格への転嫁が避けられなくなると思われるが，満額の上乗せは難しいため，利幅が縮小しますます状況が悪化すると思われる。（ガソリンスタンド）
- ・過剰な価格競争が改善されない限り良くはならない。（製造業（印刷業））





※ 平成14年9月は試行調査である